

令和2年8月7日  
於  
府中市役所

令和2年第4回

府中市教育委員会臨時会議事録

府中市教育委員会

令和2年第4回府中市教育委員会臨時会議事録

- 1 開 会 令和2年8月7日（金）  
午後1時30分  
閉 会 令和2年8月7日（金）  
午後4時02分
- 2 議事録署名員  
教育長 浅 沼 昭 夫  
委 員 日 野 佳 昭
- 3 出席者  
教育長 浅 沼 昭 夫 委 員 日 野 佳 昭  
委 員 平 原 保 委 員 新 島 香  
委 員 増 渕 達 夫
- 4 欠席者  
な し
- 5 出席説明員  
教育部長 赤 岩 直  
教育部副参事兼指導室長  
並 木 茂 男  
教育総務課長 矢 夕 崎 幸 夫  
教育総務課長補佐 矢 島 彩 子  
指導室主幹 目 黒 昌 大  
統括指導主事 吉 田 周 平  
指導主事 蓮 沼 喜 春  
指導主事 國 廣 淨 和
- 6 教育委員会事務局出席者  
教育総務課係長 元 村 考 呂  
教育総務課主任 森 菜 摘

## 議 事 日 程

第1 議事録署名員指名について

第2 会期決定について

第3 協 議

- (1) 教科用図書（小学校）の採択候補の選定について
- (2) 教科用図書（中学校）の採択候補の選定について
- (3) 教科用図書（特別支援学級）の採択候補の選定について

第4 その他

午後1時30分開会

○教育長（浅沼昭夫君） ただいまより、令和2年第4回府中市教育委員会臨時会を開会いたします。

\_\_\_\_\_ ◇ \_\_\_\_\_

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第1、議事録署名員指名につきまして、本日の議事録署名員は、私のほか日野委員にお願いいたします。

\_\_\_\_\_ ◇ \_\_\_\_\_

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第2、会期の決定でございますけれども、会期は本日1日といたします。

\_\_\_\_\_ ◇ \_\_\_\_\_

○教育長（浅沼昭夫君） 本日は協議事項が3件ございます。これらは次回の教育委員会定例会において議案として審議予定の、教科書採択の選定協議に係る案件であるため、非公開としてよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） なお、本日の会議録は、教育委員会において教科書採択が審議・決定されるまでの間は非公開とし、採択のあった日以降、採択の経過がわかるように速やかに公開するものとします。

\_\_\_\_\_ ◇ \_\_\_\_\_

◎教科用図書（小学校）の採択候補の選定について

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、日程第3、協議（1）につきまして、説明をお願いします。

○統括指導主事（吉田周平君） 令和3年度における小学校用教科書についてご説明いたします。小学校用教科書につきましては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律、及び同施行令に基づき、令和元年度に2年度から5年度まで使用する教科書についてご審議していただいております。そのため、今年度につきましては、全種目において、現在使用している小学校用教科書と同一の教科書を採択候補として挙げさせていただきます。説明は以上となります。ご協議のほどよろしくをお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 何かご質問、ご意見ございますか。

それでは協議（1）の教科用図書（小学校）の採択候補の選定については、現行の教科書を選定いたします。

\_\_\_\_\_ ◇ \_\_\_\_\_

◎教科用図書（中学校）の採択候補の選定について

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて、協議（2）につきまして、種目ごとに確認をしていきます。説明をお願いします。

○統括指導主事（吉田周平君） それでは、令和3年度使用教科用図書採択における中学校用教科書についてご説明いたします。

本年度の教科書採択に関わる事務につきましては、令和2年4月16日に開催されました教育委員会定例会におきまして決定していただきました令和3年度使用教科用図書採択に関する方針に基づき、作業を進めてまいりました。調査・研究につきましては、市立中学校へ

の学校調査を全11校に見本本を回覧いたしました。また、教科ごとに教科用図書調査研究委員会を構成し、それぞれの委員会で調査・研究を行い、その資料を基に教科用図書選定資料作成委員会で選定資料の作成を行いました。

また、「教科書の発行に関する臨時措置法」に基づき、法定展示会を14日間、7月3日から7月16日の期間で、教育センターを会場として開催いたしました。期間中は、56名の方にご来場いただき、45件のアンケートをいただきました。

なお、調査研究委員及び選定資料作成委員を委嘱した全ての者につきましては、今回の中学校用教科書の作成に一切関与していないことを、書面をもって確認済みであることをここでご報告いたします。

続きまして、今回の中学校用教科書の採択に当たりましては、本日、お手元に配付いたしました教科用図書選定資料等や委員の皆様にお届けしてございます教科書の見本本をご覧になってのご意見などに基づいてご審議いただき、採択していただくこととなります。ただいまご報告した各調査の資料につきましては、資料2は教科用図書選定資料作成委員会の作成資料、資料3は学校による調査回答のまとめ資料、資料4は法定展示会におけるアンケートをまとめた資料となっております。

では、資料1、教科用図書選定資料に則り、1教科ずつ教科用図書選定委員会からの報告をいたしますので、ご協議をお願いいたします。

国語についてご報告いたします。教科書の発行者は4社となります。各社ともに、読み物資料などは近現代文学における名作が多く挙げられているとのことでした。また、外国文学も各社ともにバランスよく教材が選定されていることが特徴として挙げられています。それ以外にも、各社工夫を凝らしている点として報告があった点は、科学的な資料や探究する場面を意図的に取り扱っていることや、二次元コードなどを設定し、個人でも学習が深められるような教科書の構成になっているとのことでした。国語については以上です。ご協議のほどよろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 事務局の説明が終わりました。何かご質問ございますか。

それでは、各委員よりご意見をお願いいたします。まず日野委員、お願いいたします。

○委員（日野佳昭君） 国語は、第一に光村図書、第二に教育出版を推薦します。

中学校時代は、大変忙しくて読書はほとんどできなかった気がします。しかし、多くの本を読むことは、どの科目にも将来大変役に立ちます。図書館の本をぜひ利用していただき、全冊読むような意気込みをもっていただきたいと思います。

どの教科書も各単元の終わりに学習の手引きが書かれている構成です。これをもって予習が可能になります。光村は、捉える、読み深める、考えをもつ、振り返るとその単元で学習することが詳しく明解になっている。学習の見通しとして、話すこと、聞くこと、議論、いろいろな文章を書く、いろいろな文章を読むという学習の流れが大変わかりやすく思います。

教育出版も読み応えのある作品が取り入れられて、とてもよく感じました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて、平原委員、お願いいたします。

○委員（平原 保君） 私は国語については、第一に光村図書、第二に教育出版を推薦いたします。

国語の学習では、言語活動を通して、国語を正確に理解し適切に表現する資質能力を育成

することが重要です。こうした資質能力を育成するために、光村図書においては、目次に続いて巻頭に資料「学習の見通しをもとう」があり、1年間の国語学習全体を把握できるように工夫されています。また、巻末には文法、漢字振り返りと学習を広げるがあり、語彙指導や言語文化に関する指導の充実等に活用することができます。また、全体に色調が落ち着いていずれのページも見やすく、学びやすいように工夫され、生徒の学習意欲が高まると期待できます。

学年別に見ると、1年生の教科書では、「情報を整理して書こう」「根拠を示して説明しよう」など説明的な文章を書く活動が数多く設定されています。また、2年生の教科書では、「多様な方法で情報を集めよう」「表現を工夫して書こう～手紙や電子メールを書く～」など、実用的な文章を書く活動が数多く設定されており、充実しています。さらに3年生の教科書では、説明的な文章と実用的な文章をバランスよく配置して、文章を書く活動が充実しており、3年間を通して文章を書く力が高められると考えます。

また、読むことについても、説明的な文章と文学的な文章、詩歌等がバランスよく配置されており、生徒の思考力や創造力、伝え合う力を高められるように工夫されています。

読書案内では、各作品の関連図書「広がる読書」には、生徒が興味をもって本を手にするよう作品が紹介されており、読書指導の充実、改善につながれると考えられます。

また、二次元コードや教科書に示されているURLから、学習の参考となる資料を活用することができるということから光村図書を第一にしました。

続いて、教育出版については、巻頭に「言葉の地図」があり、1年間での学習内容と身につけたい言葉の力が一覧表示されて、見通しをもって国語学習に取り組めるよう工夫されています。また、まなびナビには、各教材の学習のポイントが示してあり、活用して主体的に学んでいくことができると考えられます。それから、読むことについては、各学年の教科書に自然や環境、科学や情報など幅広いジャンルに関する説明的な文章が取り上げています。また、文学的な文書、詩歌等も豊富に配置されて、優れた作品との出会いを通して、学びに向かう力や豊かな人間性を養うことにつながると考えます。また、まなびリンクの二次元コードから、学びを広げるための資料を活用することができる。以上の理由から第二推薦といたしました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて、新島委員、お願いいたします。

○委員（新島 香君） 私は、国語は第一が光村図書、第二が教育出版です。

まず、光村図書ですが、巻頭に思考の地図として思考を広げる、整理する、深めるという様々な考え方について説明があり、よいと思いました。また、巻末の学習に必要な基本的な観点などがまとめてあり、学習の窓が本文にも掲載されており、わかりやすいと思いました。著名な作家さんの作品が多く、読みやすかったです。イラストや資料の配置もよく、紙面が見やすかったのがよかったです。情報分野の教材が多く掲載されていて、今を生きる子どもたちにはよい教材ではないかなと思いました。

次に、教育出版です。こちら、本文に入る前に、学びナビで何を学ぶかを意識づけしているところがよいかなと思いました。色合いが目優しく、柔らかな感じがすごく好感がもてました。デジタルコンテンツ、まなびリンクは、全学年分全教科を見ることができ、大変便利だなと思いました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、続いて、増渕委員、お願いいたします。

○委員（増渕達夫君） 私はこの教科書を考えるに当たって、学習指導要領の改訂の主な改訂点がどこまで反映されているのか、ということが一番重視して考えました。国語の学習指導要領の大きな改訂点としては、「情報の扱い方に関する事項」を新設していますので、そこをどう扱っているのかということを考えました。それから、2年生では、言葉の働きのうち、相手の行動を促す働きに関する指導事項が新設されています。

教科書を見てみると、光村は知識、技能、内容を取り上げる単元のうち、情報の扱い方に関する事項の扱いが最も充実していると思えました。それから、実用的な内容が今回かなり重視されています。文学的な内容とのバランスを見ましたけれども、説明的な文章対文学的な文章のバランスは、光村が21対16、東書が13対12、三省堂16対12、教出30対15というバランスでした。それから、国語の指導では、読書指導が重要ですが、光村の教科書は、教科書に掲載された内容が抜粋である場合には、「続きはこちら」とか、著者紹介欄には、当該著者のほかの作品を紹介するなどの工夫が見られます。この工夫は、東書にも同じように見られました。

こういったことから、私は第一候補を光村、第二候補は東京書籍と考えました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、最後に私の意見を申しあげます。

私は、光村を推したいと思っています。今まで使用してきた教科書で、これを引き続き採択するのがよろしいかなと思えました。そして、国語教育では、OECDの学習到達度調査、読解力の国際比較で急落したことを背景にして、実用を重視という声もある中、情報化社会での実用が各学年に取り入れられています。こうした中で、文学的な文章教材が他社に比べて光村が充実しているということ。そして、国語の本質である言葉の力ということで、例えば、国文学者の大岡信さんの随筆、言葉による資質能力、人間の内面の表出としての美しい言葉、正しい言葉への理解を含む点に対しても、大変注目いたしました。それから、学習教材のジャンルごとに思考力、判断力、表現力と知識技能の一覧があり、1年間の学習の見通しをもった学習の積み重ねが期待できる工夫があるということもその理由の1つです。以上から、私は光村を推したいと思っています。

それでは、これまでのご意見をまとめますと、光村そして教育出版ということですが、光村図書の評価が高いようですので、採択候補を光村図書ということにしてよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、続きまして、次の種目の説明をお願いいたします。

○統括指導主事（吉田周平君） 国語科、書写につきましてご報告いたします。教科書の発行者は4社となります。各社の傾向として、楷書から行書への流れで教科書が構成されており、硬筆については、直接教科書に書き込めるという特徴があります。毛筆については、書き順や書く筆順の流れが生徒にわかりやすく表示されており、使いやすくなっているとの報告がありました。また、文字文化については、各社とも記載内容が充実し増えてきており、文字に対する関心が高められていく内容となっています。各社とも二次元コードを使って、実際に見て書ける動画コンテンツが用意されているとの報告がありました。書写については以上です。ご協議のほどよろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、説明が終わりましたけれども、ご質問等ありますか。

それでは、ご意見をお願いしたいと思います。最初に日野委員、お願いいたします。

○委員（日野佳昭君） 書写は一番に教育出版を推薦します。2番目として光村を推薦します。毛筆は、どちらの出版社も筆の運びがとてもわかりやすく感じました。また、どちらも楷書・行書の書き方の説明が丁寧と感じました。さらに光村図書では日常に役立つ書式がいい。教育出版の資料もわかりやすい。また教育出版は手本も多く、文字の練習がたくさんできる。また、百人一首があり、古文の学習にもよいと感じました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、続きまして、平原委員、お願いいたします。

○委員（平原 保君） 私は、書写については、第一に教育出版、第二に東京書籍を推薦します。

書写の指導においては、小学校の学習を踏まえて、「文字を正しく整えて書くことができるようにすること」、「書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てること」が求められています。こうした2点を指導するに当たって、教育出版の教科書においては、ワイド版サイズで余裕のあるレイアウトで、手本の大きさや字形が見やすく、生徒が基礎基本を学習することができます。また、楷書・行書とも字形が美しく、生徒が手本として用いるのにふさわしいと思います。また、学習や日常生活に生かして書く活動が豊富に取り入れられ、書写の能力を役立てる場が設定されています。また、コラムで取り上げている各種テーマなどを通して、生徒が我が国の言語文化を理解するように工夫されています。また、表装や色調・表現が美しく、3年間使用していく中で、文字文化のすばらしさに気づいていけるのではないかと考えました。

東京書籍もワイド版のサイズで、手本の文字の大きさや字形が見やすく、字形を整えて、文字の大きさ、配列などを理解して、基礎基本を学習することができると考えられます。また、学習や日常生活に生かして書く活動が多く取り入れられ、書写の能力を役立てる場が設定されていることから、第二推薦としました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 新島委員、お願いいたします。

○委員（新島 香君） 私は、書写は第一が教育出版、第二が光村図書です。

理由ですけれども、教育出版は、まず見開きですごく使いやすい教科書であること、手が自由に使えていいなと思いました。また、学年ごとにページが色分けされていて、見やすいこと。あと、筆や墨など用具についてや、文字に関わるコラムが多数あり、興味がもてると思いました。あと、書き初めの原寸大のお手本がついていること、手紙の書き方など、社会人として必要な様々なことが実用的に学べてよいと思ったことが理由です。

次の光村図書ですが、こちらも見開きで使いやすい教科書であることはよかったです。筆の書き始めから終わりまでを音で表しているのはわかりやすくよいと感じました。半紙サイズのお手本が多くついているのもよかったです。日常に役立つ書式として、手紙の書き方など教育出版と同様に記入されていたのはよかったですと思います。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、増淵委員、お願いいたします。

○委員（増淵達夫君） 私も結論から第一候補は光村、第二候補は東京書籍にしました。

今回の学習指導要領の改訂で、書写は「身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くこと」が求められています。教科書を分析したところ、身の回

りの多様な表現を通して文字文化の豊かさにふれ、効果的に文字を書くということを取り上げている項目は、東京書籍が一番多くて、その次が光村でした。したがって、どちらにするか迷いましたが、書写は国語の指導内容の一部でもありますし、国語の学習との関連を図ることというようなことを考えて光村を第一、東書を第二としました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、私は光村図書を推したいと思いました。小学校との関連も1つあります。それで中身ですが、QRコードが光村は充実していきまして、動画を通して指導に効果をもたらすのではないかなということが一つ、それから、毛筆での朱を使った穂先の向きや動きの説明が、写真やイラストが必要に応じて使われており、極めてわかりやすく表示され、使いやすい教科書だなと思いました。それから、書写ブックがあり、毛筆と硬筆の関連を学習できるとともに、デザインと文字、UD書体など、関連事項を理解するという手があります。

そして資料ですが、手紙の書き方やはがきの書き方など、日常生活に役立つものが取り入れられております。今まであったエアメールがなくなり、代わりに電子メールや宅急便の送り状と、時代の変化に応じたもので日常生活に役立つのかなと思いました。そして、この筆順の表示はわかりやすい特徴と思った次第です。私は光村を強く推したいと思いました。

今のところ、教育出版、そして光村図書ということでお話いただきましたけれども、いかがでしょうか。特になければ、採択候補として教育出版を挙げたいと思いますけれどもいかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、教育出版を採択候補にしたいと思います。

続きまして、次の種目の説明をお願いします。

○統括指導主事（吉田周平君） 社会科、地理的分野についてご報告いたします。教科書の発行者は4社となります。来年から始まる新学習指導要領では、我が国の国土について、調査や資料から様々な情報を効果的にまとめる技能が求められていることから、各社共通して多面的に考えられるよう、カラフルな図表や写真等を掲載し、子どもたちにいろいろな部分で考えさせる形、自分の意見をもたせる形を取っているとの報告がありました。また、各社とも自社の地図との密接な連携が取られていて、活用しやすいように工夫はされていますが、自社の地図が採択されていなくても利用できるような汎用性をもたせているとのことでした。地理的分野については以上です。ご協議のほどよろしく願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 事務局の説明が終わりました。何かご質問ございますか。

それでは、各委員よりご意見をお願いいたします。まず日野委員、お願いいたします。

○委員（日野佳昭君） 私は、第一に帝国書院を推薦したいと思います。2番目として教育出版を推薦します。

帝国書院は、見通し、振り返りという展開で理解しやすい。また、写真、図が見やすく作られている。単元の終わりに確認しよう、説明しようという学習ラインを確認できる点が良いと思います。教育出版も、つかむ、調べる、まとめるという学習過程がとてもわかりやすく作られていてよいと感じました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続きまして、平原委員、お願いいたします。

○委員（平原 保君） 私は第一に帝国書院、第二に東京書籍を推薦します。

まず、帝国書院ですけれども、各章・各節の初めに「章の問い」「節の問い」「学習課題」が示しており、生徒が課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組めるように構成されています。また、各章や各節の最後には、「学習を振り返って」や、章や節の問いに答えるページがあり、学んだことを確かめたり、地理的な見方、考え方を働かせて説明したりできるように工夫されています。また、写真や地図などの資料が鮮明で見やすく、課題を捉えやすい。写真の読み取り方や主題図の読み取りなど、わかりやすく示されており、生徒が資料を活用して課題意識をもって学習に取り組むことができる。3つ目に、日本の様々な自然災害について、地形や気候と関係づけて理解したり、自然災害に対する備えについての努力や工夫を考察したりできる効果的な資料が、豊富に掲載されている。またハザードマップの読み取り方や防災情報の入手など、防災意識を高め、防災の知識や技能を身につけることが期待できます。

第二に東京書籍ですが、各章の初めに「小学校で習ったこと」が掲載されていて、小学校の学習を振り返る活動ができます。第二に世界各地の人々の生活と環境を始め、鮮明な写真資料が豊富に掲載されている。また、複数の写真を比較する、1枚の写真から読み取る視点などがコラムにわかりやすく示されており、豊富な写真資料を有効に活用できるように工夫されているところを推薦します。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、続きまして新島委員、お願いいたします。

○委員（新島 香君） 私は第一に帝国書院、第二が東京書籍です。

まず、帝国書院ですが、各ページともふんだんに写真等の資料があり、わかりやすいところがよかったです。また、文字が大きめで読みやすいところ、あと技能を磨くコーナーで、地理を学習する上で必要な基礎的なことが多く学べるところがよかったです。対話的な学びのためのコラムでは、防災に関して扱っているものが多かったのが大変よかったですと思います。

次に、東京書籍ですが、各ページに課題等があり、対話学習や資料の読み取り、見方や考え方など、学習を深めることができるところがよかったです。また、Dマークの資料の中に、小学校の復習として、クイズがあり、楽しめるところがよかったです。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、増淵委員、お願いいたします。

○委員（増淵達夫君） 私は、第一候補は帝国書院、第二候補は東京書籍としました。

今回の学習指導要領の改訂で、地理的分野については、「地球的規模の課題等を主題として取り上げる学習の充実」や、防災・安全教育に関して、空間情報に基づく危険の予測に関する指導の充実などが示されています。

地球規模の課題を主題として取り上げた学習の充実という観点からいくと、本文やコラムの扱いは帝国書院が最も多くて、44か所ありました。その次が日文の20か所ということで圧倒的に帝国の取扱いが多いと思いました。それから、防災・安全についての記述箇所数は、日文は115、教出85、東書75、帝国53でした。それから、地理的分野については、地域調査の手法を確実に学ぶという必要があるかと思いますが、そういったフィールドで考えると、帝国書院は東京の練馬を取り上げていました。ほか、東京書籍は高知、教育出版が名古屋、日文が京都ということで、東京に関する地理的事象の扱いは帝国書院が最も多くて、そういった意味では、調査手法を学ぶという観点からも、帝国書院を第一候補にしました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、私ですが、私も日野委員と同じ考えをもちました。

地図帳は帝国書院がいろいろなと感じたものですから、順番は違うのですけれども、帝国書院を中心に見ました。そして、その中の特徴ですけれども、各節の学習を振り返りながら、主体的、多様な学び、地理的な見方、考え方などを、新学習指導要領を意識した構成により、学習の深まりを促しているのかなという帝国書院の特徴。そして、各学校で今取り組んでいただいているふるさと学習と防災教育に関連する事項を多く取り上げているということ。それから、SDGsの17の目標を掲げ、地域のよりよい発展を目指した日本や世界の取組を紹介している、この点も目につきました。以上から、社会科、地理的分野については、私は帝国書院を推したいと思います。

それでは、いただいたご意見をまとめますと、社会科の地理的分野につきましては帝国書院を一番推したいというお声ですけれども、帝国書院ということによろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、続きまして、歴史的分野、お願いします。

○統括指導主事（吉田周平君） 社会科、歴史的分野につきましてご報告いたします。教科書の発行者は7社となります。今回の学習指導要領では、多面的・多角的に社会的事象の意味、意義、特色などについて、相互の関連を図ることが指摘されており、特に歴史的分野では大きな流れをつかみ、単発の事象として理解するのではなく、関連性をもたせて理解させることが示されています。そのため、教科書については様々な歴史的な資料、バラエティに富んだものを各社が用意しているところが今回の特色となっているとのことでした。歴史的分野については以上となります。ご協議のほど、よろしく願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 説明がありましたけれども、ご質問等ございますか。

それでは、まず最初に日野委員、お願いいたします。

○委員（日野佳昭君） 私、1番には帝国書院、2番には東京書籍、教育出版もいいなと思ったのですけれども、東京書籍を推薦します。

選ぶにあたって、情報が公平かどうかというのをまず見ました。歴史を公平に見ているかというところを見ました。また、私の場合、歴史を記憶するとき、よく写真として教科書を覚えるというのをやっけていて、ページ全体が見やすく、覚えやすいような作りになっているかというのも基準の1つとして見ました。

その中で、帝国書院は大変読みやすく作られておりまして、巻末の歴史年表はとても見やすく感じました。単元の初めの問いも理解しやすい問いになっていると感じます。教育出版も、単元ごとに年表がありまして、見やすく作られております。また最後の確認、表現で自分の考えをまとめやすく感じました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、続きまして平原委員、お願いいたします。

○委員（平原 保君） 私は第一に東京書籍、第二に教育出版としました。

歴史の学習では、生徒が主体的に課題を追究したり解決したりする活動を通して、知識や技能を身につけるとともに、歴史について考察する力や説明する力を育成することが大事だと考えています。

そこで、東京書籍では第一章「歴史へのとびら」、小学校の学習を振り返って概観し、更に歴史を深く学習するために「歴史の見方・考え方」「歴史の流れの捉え方」「時代の特色を捉

える捉え方」など、12ページにわたりわかりやすく丁寧に導入がなされています。

また、デジタルコンテンツが充実しており、二次元コードから専用のウェブページなどで様々な情報を得て活用して、生徒が学校や家庭で学習できるようになっています。コンテンツの内容には歴史クイズや、役立つリンク集、他教科とのリンク集など、豊富な情報を生徒が活用できるように工夫されています。

また、日本の歴史の背景となる世界の歴史を扱う左ページの下段には、世紀と日本の時代区分を示す年表が記載されており、常に日本と世界の歴史を関連して学習できるように配慮されています。

また、防災や自然災害に関する歴史については、日本が直面する課題として、本文には阪神・淡路大震災及び東日本大震災が取り上げられ、コラムでは「稲村の火」や「東日本大震災の記憶を伝える取組」などが見開きページで掲載されています。

教育出版においても、やはり、防災や自然に関する歴史についての本文やコラム、写真などが豊富に掲載されています。「関東大震災と後藤新平」には現在につながる復興事業、本文「災害に向き合う」には、阪神・淡路大震災及び東日本大震災、熊本・大分や北海道など各地の地震などが取り上げられ、地域の復興と今後の災害対策について記述されています。

また、最終節、「未来をひらくために」では、広島平和記念式典、青年海外協力隊員の活躍、こども環境サミットなどの写真や資料が掲載されて、こうした資料を基に、世界の平和と人権、環境問題について、生徒が歴史学習で学んだことを生かしていけると考えました。

**○教育長（浅沼昭夫君）** それでは、続きまして、新島委員、お願いいたします。

**○委員（新島 香君）** 私は、歴史的分野は第一が東京書籍、第二が帝国書院です。

理由ですけれども、東京書籍は各ページともふんだんに写真等の資料があり、大変わかりやすかったのと、文字も大きめで見やすく読みやすかったです。あと、各ページに課題等があり、対話学習や資料の読み取り、見方や考え方など、学習を深めることができるのがよかったです。また、Dマークの資料の中に、小学校の復習として歴史人物を当てるクイズがあり、楽しめるところがよかったです。

次に、帝国書院ですが、写真等の資料も多く、文字も大きめで見やすいところは同じでした。章の初め、本文、最後に「タイムトラベル」というタイトルで、時代の流れとともに暮らしがどう変わったかが確認できるのがわかりやすくよかったです。以上です。

**○教育長（浅沼昭夫君）** それでは、増淵委員、お願いいたします。

**○委員（増淵達夫君）** 私は、第一候補は山川、第二候補は東京書籍で、第三候補、育鵬社としました。

学習指導要領の主な改訂の中で、歴史的分野については、世界の歴史の学習も充実させるということが、今回大きなポイントになっています。

世界の歴史について取り上げている箇所が多い教科書は、山川、帝国、それから東京書籍、育鵬社、この辺りになります。その中で、山川は各章の初めに、2ページの見開きでその章で扱う日本史及び世界史の年表、そして主な歴史上の出来事が書かれていて、相互に関連づけながら概観できるようにしていますし、章末においても、海外との関係に関する問いが設けられるという、そういった工夫があるかなと思います。あと、探究的な学びができるかどうかという観点ですけれども、これは東京書籍が、先ほどもご指摘がありましたけれども、

項目ごとに学習課題の設定をしていて、そして章ごとに節単位の探究課題を示して、節の最後にそのヒントを置いて、単元全体を通して教員が指導しやすいような、そういった工夫があると思います。これは東京書籍の社会科全体に共通する編集かなと思います。

それから、山川は「歴史へのアプローチ」、「歴史を考えよう」などの特設ページを設けて、生徒がコラムを読んだり、活動したりすることを通して、歴史的思考力を育成する、そういった工夫が見られると思いました。

ですので、特に山川、東書どちらにしようかかなり迷いましたが、高等学校に行くと、今までの世界史必修から歴史総合という形になりますので、世界史と日本史の関連ということを重視して第一候補を山川、第二候補を東書としました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、私ですけれども、これは教科書が近現代を一層重視する観点から、やはりそこにページを充てられているのかなと思います。それぞれの特徴があるわけですが、私は、歴史的分野は東京書籍を第一に推したいと思います。そして、第二は山川を推したいと思います。

東京書籍ですけれども、図版が大きくて見やすい工夫、それから見開き2ページを1単位時間で学習するという構成になっています。指導しやすいのかなと感じました。それから、取り上げられている文化遺産が最も多く、日本史の歴史を理解して考える上でふさわしいのかなと感じました。「歴史へのとびら」の中で、我が国の歴史の大きな流れを理解する学習を一層重視していくという観点から、時期や年代の表し方、歴史の流れの捉え方、時代の特色の捉え方など、歴史の見方、考え方を中心に設定したのかなということでもあります。それから、何か府中市に縁のあるところはないかなと思って一生懸命探したのですが、国府と国司については、国府が置かれた旧国名と現在の都道府県名が示された地図が巻末集として掲載されています。また、「五畿七道」と言うらしいのですが、府中市にも一部通っている東山道、武蔵路が記載されているところを発見しました。それを含めて、全体を通して原始から現代までの時代で、その学習している内容がどの時期に当たるかということを示している点で、工夫が読み取れているのかなと思いました。

それから、2つ目の候補の山川出版なのですが、大変資料が豊富で、さてこれだけの資料をという部分もある一方で、私が特に気がついたのが、教科書にある発問の仕方が秀逸ですね。非常に深い学びを要求しているのかなと思いました。今までの教科書のスタイルとは、ほかの教科書とはちょっと違うのかなと思った次第です。私からは以上になります。

それでは、社会科の歴史的分野、分かれましたが、東京書籍を第一に推すのが、平原委員と新島委員とそれと私になります。それから、日野委員は帝国書院、そして増淵委員は山川出版社ということになりますけれども、全体として東京書籍を採択候補としてよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、採択の候補としては、東京書籍を挙げたいと思います。それでは、続きまして社会科公民的分野をお願いします。

○統括指導主事（吉田周平君） 社会科公民的分野につきましてご報告いたします。教科書の発行者は6社となります。よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に解決、理解度を養うとともに、多面的、多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史などを含

め、国民主権を担う公民として自国を愛し、平和と繁栄を図るなど、他国や他国の文化を知ることの大切さについてが、今回の学習指導要領において改訂の重点をなすものとなっています。その観点から、公民の分野については、特に考えさせる、それぞれ生徒に課題を与えて自らの意見をもたせる、中にはそうした意見をディベートなどで戦わせ合う形で自らの考えをまとめ発表させるという工夫がなされていることが全体的な特徴となっています。特に、公民的分野は、3年生で学ぶことから、地理的分野や歴史的分野といった既習事項との関連を図ることが明確化されていることが教科書の特徴となっているとの報告がございました。公民的分野については以上となります。ご協議のほど、よろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 事務局の説明が終わりました。何かご質問ございますか。

それでは、各委員よりご意見をいただきたいと思えます。日野委員、お願いいたします。

○委員（日野佳昭君） 公民も歴史と同じなのですけれども、1番に帝国書院、2番に東京書籍を推薦します。

こちらは、天皇、韓国、戦争、領土などの記述に公平性があるかどうかを重視し、その中で、帝国書院は、図、写真、資料など配置が統一されていて見やすく作られております。学習課題から始まり、確認、説明しようと学習が進めやすく作られています。

東京書籍も学習課題で始まり、チェック、トライと学習を進めやすい作りになって、また、資料がとて多く感じました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて、平原委員、お願いいたします。

○委員（平原 保君） 私は、第一に帝国書院、そして第二に教育出版を候補とします。

まず、帝国書院についてですが、巻頭「教科書の学習のしかた」「公民的分野の学習の全体像を見通そう」などによって、生徒が既習事項との関連を捉えた上で、公民の学び方に見通しをもって取り組めるように工夫されています。また、主体的な学習を促す題材が多く、身近な事例を取り上げ、課題解決型の学習に取り組むことができるように工夫されています。

特に、第二部では、政治が日本国憲法に基づいて行われることの意義について、民主主義や立憲主義を始め、一般的に語句の説明、解説や写真・イラスト資料がわかりやすく表現されています。また、基本的人権については、人権作文コンテスト入賞作品集や生徒の作文も掲載されています。府中市においても、長年にわたり小中学生が人権作文に取り組んでおり、人権作文発表会も開催されています。生徒がこうした経験と重ねて、公民の学習で人権について深く考えることができると思えます。

また、多摩川流域での環境への取組についての写真やコラムが掲載されていますが、毎年府中市においても、各種団体の多摩川の清掃活動が行われ、多くの児童・生徒も参加しています。こうした経験と結びつけて、地球規模の視野をもって足元の問題を見つめながら、公民の学習を主体的に進めることが期待できます。

次に教育出版ですが、4人のキャラクターを登場させて、各章における問いをもとに生徒が興味をもって学習課題を追究ができるように工夫されています。第二に地方自治と住民の参加について、自分たちが暮らす身近な地域の政治について、主体的に学習できるように構成されています。第三に、安心して豊かに暮らせる社会について、生徒自身の15年間を振り返ることから、身近な暮らしを支える社会保障について考えることができるように工夫されていることです。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、新島委員、引き続きお願いします。

○委員（新島 香君） 私は、公民的分野は、第一が帝国書院、第二に東京書籍です。

理由ですが、まず、帝国書院、各ページともふんだんに写真の資料があり、わかりやすかったです。また、章の初めに、各年代のまちの様子がイラストで紹介され、これまでの社会経済等変化がつかみやすくなっているところがよかったです。また、今、平原先生も言っていました、多摩川清掃の様子が写真掲載されていて、身近な題材で興味をもててよいと思いました。

次に、東京書籍ですが、文字が大きめで読みやすかったのがよかったです。また、Dマークで資料を見ると、一度開けば全てのコンテンツが見られるところが便利でした。あと、各ページに課題等があり、対話学習や資料の読み取り、見方や考え方など、学習を深めることができると思いました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、増淵委員、お願いいたします。

○委員（増淵達夫君） 公民的分野については、私は第一候補東京書籍、第二候補は教育出版、第三候補は育鵬社と考えました。

公民的分野については、学習指導要領の具体的な改訂の内容から考えると、防災情報の発信、活用に関する指導、新たに取り上げられた起業に関する取扱い、それから選挙権年齢の引下げに伴う政治参加などの取扱い、などをポイントとして判断しました。

防災や自然災害等における関係機関の役割の扱いについては、東京書籍が最も充実していて、東書、日文、育鵬社の順番かと思います。それから、起業の扱いなのですが、これが初めての扱いですので、本文にさらっと書いてあるだけではなくて、きちんとまとめて書いてあるものと思って探しましたが、東京書籍がコラム、教育出版も節末のコラム、それから帝国書院が節末ということで、あとは本文中に流し込まれているような形でした。それから、権利義務とのバランス、これはどこも配慮できているかなと思います。それから、探究的な学びができるようにするための工夫についてですが、東京書籍は先ほどの歴史と同じように、項目ごとの学習課題の設定とともに、章ごとに節単位の「探究課題」を示し、節の最後にそれらのヒントとして「探究のステップ」を置いて、単元全体の指導の中で教員の指導がしやすいように工夫されていると思いました。それから、育鵬社は各章の導入に「入り口」のコーナーが設けられていて、複数の資料や意見を通して、課題意識を高めることができるような工夫が施されていました。それから、教育出版が学習の初めに内容に関する課題を提示して、生徒たちが作業したり、学習の見通しをもったりできるような編集上の工夫が見られると思いました。

以上を総合的に考えて第一候補が東書、第二候補が教出、第三候補が育鵬社と考えました。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いては私ですけれども、教科書の巻末は法令集が記載されていて、根拠を明確にして論議できる、そういった構成や編成がされていますね。

私は最終的に、東京書籍と帝国書院の2つが候補として残りました。そして、今後、更に充実されていく深い学びという、この実現を念頭に置きまして、このことにつながる言語活動、すなわち、説明や伝え合い、要約などを多く取り上げる2社について検討した次第です。その結果、帝国書院を採択したいと思いました。

その理由ですけれども、図版が大きくて見やすい工夫、それから見開き2ページが1単位

時間という精選された構成です。それから、ルール徹底の方法など身近な事例を取り上げて、実生活の中で思考を促す中、高い視認性を育てる、そういうことが感じられました。それから、第二節でしたけれども、貧困解消と環境保全を取り上げまして、SDGs 17の目標や、持続可能な地球環境、資源・エネルギー問題を提示している。それから、レポート作成上の手法、ウェビングマップを紹介し、主体的な学びの実現を目指しているということで、私は第一に帝国書院、そして第二に東京書籍と考えました。以上です。

さて、公民的分野ですけれども、意見が分かれまして。皆さん方の意見をまとめますと、帝国書院の評価が高いようですけれども、採択候補は帝国書院の教科書ということでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長(浅沼昭夫君) それでは、続きまして、社会科の地図をお願いいたします。

○統括指導主事(吉田周平君) 社会科地図につきまして、ご報告いたします。教科書の発行者は2社となります。2社ともそれぞれ工夫を凝らした内容となっており、特に鳥瞰図など、いろいろな地図を豊富に掲示することによって、子どもたちが地理的分野、歴史的分野、公民的分野の3分野に地図帳が活用できるような形となっているとの報告がございました。また、色遣いもカラフルとなっており、2社ともかなり工夫されているとの報告がありました。地図については以上です。ご協議のほどよろしくお願い申し上げます。

○教育長(浅沼昭夫君) ご質問等ありますでしょうか。

それでは、ご意見をいただきます。日野委員、お願いいたします。

○委員(日野佳昭君) 帝国書院は大きく見やすく作られております。立体的で断面もあり、様々な資料、統計もあり、内容もわかりやすく作られております。こちらを推薦します。

○教育長(浅沼昭夫君) それでは続きまして、平原委員、お願いいたします。

○委員(平原 保君) 私も帝国書院を候補にします。各ページの「地図帳の使い方」として、基本的な見方・使い方がわかりやすく解説されています。続いて「国土地理院の地形図」で、実際の地形図や読み取り方について紹介しています。また、二次元コードから地形図の電子版などを閲覧することができるようになっていきます。構成の工夫により生徒が地図帳を活用し、主体的に学ぶための基礎基本を身につけることができる地図帳になっています。

次に、「世界の環境問題」「世界の生活・文化」「日本の農業・水産業」「日本の自然災害・防災」など、資料を扱っているページには、学習課題が明確に記載されていて、生徒が視点を定めて読み取りながら活用できるようになっています。

また、鳥瞰図が数多く記載されており、生徒が地形や高低差を視覚的に捉えて、地形の特色や土地利用、防災について、思考・判断しながら学習することができます。以上です。

○教育長(浅沼昭夫君) それでは、新島委員、お願いいたします。

○委員(新島 香君) 私も地図は帝国書院です。教科書自体のサイズが大きく、地図が見やすい。また地図上の文字も見やすい文字になっていてよかったです。あと、災害や防災についての資料が多かったのがよかったと思います。デジタルコンテンツがあり、役立つ地図帳だなと感じました。以上です。

○教育長(浅沼昭夫君) それでは、増淵委員、お願いいたします。

○委員(増淵達夫君) 地図帳ですけれども、圧倒的に帝国書院が様々な情報量が多くて、

地理的分野だけではなくて、歴史的分野、それから公民的分野での活用ということを考えると、第一候補として帝国書院を推したいと思います。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、私ですけれども、私も帝国書院の地図帳を採択したいと考えました。関東地方で比較してみますと、地図上の地名や河川名が非常に読みやすくなっている。中でも東京都とか大阪など、都市部の込み入った地名が読み取りやすいと感じました。山脈の構造もより立体的であるということ。それから、東京都周辺の地形、水と人の関わり、防災ということで、府中市を取り巻く地形や防災の歴史を取り上げているということ。それから、先ほどご指摘ありましたけれども、資料図として鳥瞰図が豊富で、地図への親しみや視覚的イメージをもたせることができるということで、地図は帝国書院を推したいと思いました。以上です。

それでは、まとめますと、これは一致して帝国書院の地図ということですが、候補として挙げてよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、続きまして、数学をお願いいたします。

○統括指導主事（吉田周平君） 数学につきましてご報告いたします。教科書の発行者は7社となります。各社とも内容は系統的な構成となっており、学び方として3つの特色を出しています。1つ目は、理解、定着、活用、進化を重視していること。その中でも、特に主体的に対応できる深い学びを象徴するものとして、全体での学び、個の学びについて工夫されています。2つ目は、数学的な見方、考え方についての記述がこれまでの教科書よりも多くなっています。実際に、どのように学習者が考えていけばいいのか、きめ細やかに書かれています。3つ目は、算数、数学の系統性が意識されており、振り返りの内容を導入の前に載せている教科書が多くあったとの報告がございました。数学については以上となります。ご協議のほどよろしくをお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 何かご質問はありますか。

それでは、日野委員、お願いいたします。

○委員（日野佳昭君） 1番に啓林館、2番目に東京書籍を推薦します。

どちらも、内容の説明がとてもわかりやすく書かれていると思います。その中で、啓林館は学びを確かめよう、身につけよう、学びを生かそう、力をつけようと段階的に練習問題がそろっているのがよいと思います。2番目の東京書籍も各単元の最後に深い学びがあり、発展的な理解が深まるような作りになっているところがよいと感じました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、平原委員、お願いいたします。

○委員（平原 保君） 私は第一に東京書籍、第二に大日本図書を候補としました。

まず、東京書籍についてですが、Qマークで学習課題を提示して、生徒が問題解決的な学習に主体的に取り組み、既習の知識と関連つけて新たな知識を理解したり、技能を活用したりできるように構成されています。

また、深い学びには、「規則性に着目して式を表す」「数量の関係に着目して式をつくる」「データに基づいて問題を解決する」など、見方・考え方が端的に示され、生徒が数学の問題や身の回りの問題を解決するときに活用できるようになっています。

また、「学びを振り返ろう」は、生徒が問題解決の過程を振り返って、評価・改善しようと

する態度を育むために大変有効だと考えます。

次に、大日本図書ですが、事象を数理的に考察する活動を重視し、数学的思考力・表現力、それらを活用して考え、判断する能力を育むことが重視されています。学びにプラスは、学びを振り返ったり、広げたり、活用したりする課題が提示されており、数学的な表現力を高めたり、視点を増やしたりして検証し、生徒が数学の問題や身の回りの問題を解決する能力を高めることにつながると考えました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、新島委員、お願いいたします。

○委員（新島 香君） 私は、第一が大日本図書、第二が啓林館です。

理由ですけれども、大日本図書は、まず、例題となる設問が生活上活用し得る問題が多く、数学を学ぶ意義を感じられるのがよいと思いました。また、巻末に学んだ内容が要約され、切り取れるようになっていて、次学年でも活用できるところがよいと思いました。あと、1年の巻末には、小学校算数の振り返りが丁寧に記載されていて、小学校のときに苦手だった子もわかりやすくよいかと思いました。あと、デジタルコンテンツを開くと、理科とかも見られ便利でした。

次に啓林館です。こちらも章末問題に他のページで学んだ内容の記載があり、振り返りができてよいと思いました。あとデジタルコンテンツでは、練習問題の解答が見られて、間違えても楽しみながら学習できる内容がよかったです。また、デジタルコンテンツの中でプログラミング入門がついていたのもよかったですと思います。巻末の「力をつけよう」問題では、入試問題にチャレンジとして、1問入試問題があるのが挑戦できていいと思いました。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、増淵委員、お願いいたします。

○委員（増淵達夫君） 私は、第一候補は大日本、第二候補が学校図書としました。

今回の指導要領改訂の中で、数学と人間との関わり、それから、数学の社会的有用性について認識が高まるように配慮するということが第一のポイントかと思います。それから、統計的な内容を充実させるというのは第二のポイントかと思います。

こういった観点で見ると、日常の事象や社会の事象を取り扱っている箇所数としては、大日本が一番多くて91、その次が学校図書87、教育出版84という数字です。それから、データの活用のページが多い、これは学校図書が84という状況で一番多くなっています。

それから、例題の数、それから問題数が最も多いのが大日本ですので、多様な学力の子どもたちにも十分対応できると思います。そして何よりも日常の生活の関わりということで、大日本の場合、章の初めに、例えば数の世界の広がりということで、サッカーにはどんな数があるのか、チームの人数とか、スタジアムの観客数とか、ボールの保有率とか、得失点差、そういったところで、スポーツと数学との関わりが示されているページがありました。それから、「発見、仕事の中の数学」というところで、パイロットの仕事と数学とか、アーティスト、オリンピックエンブレムを作った人、その仕事と数学とか、スポーツデータアナリストとか、そういった日常の中での数学ということが、実際にその人のインタビュー記事を入れながら載っていましたので、これが数学の苦手な子にとっても、数学を学ぶ意義、それをなかなか理解できない子どもにとってもわかりやすいのかなと思いました。

そういったところから、第一候補を大日本、第二候補は学図といたしました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） では、私なのですが、数学はQRコードを記載しているのが7社

のうち5社でした。そして、QRコードを通して子どもたちが学ぶ場合に、関数とか図形、あるいは回転や移動については動画が有効かなと思い、大変興味深く見させてもらいました。その中で、私は第一に啓林館、第二に東京書籍を推したいと思っています。

啓林館なのですが、これは関連ページにQRコードを設定しているのですね。使い勝手がいいのかなということ。そして、ついでに、予習、復習の練習問題を充実させていくことになっているし、日常生活と関連づけて数学を嫌いというのが解消につながっていくなという、これを狙いに書いています。そして、教科書の作りがユニークですね。「みんなで学ぼう編」が従来での縦長横開き、一方で裏表紙から「自分から学ぼう編」は横長上下開きということになっており、学習テーマに変化をつけながら練習問題などを生徒の関心を引き出すようなつくりになっている。それから、ページ下に様々な場面での数学的な見方、考え方を働かせるヒントがあるということです。

次の候補としては、東京書籍がよろしいかなと思いました。以上です。

さて、分かれました。確認しますと、東京書籍を第一に推すのは1人、第二が2人、それから大日本図書を第一に推すのがお二方、そして第二がお一方、そして学校図書が1人、そして啓林館が第一候補として2人、第二候補として1人ということで、啓林館と大日本が同じに分かれてしまいました。

普通は教育長が最後にやって結論的には教育長が決めるのですけれども、これはあくまで協議ですので、もう少しご意見いただけたらと思いますけれどもいかがでしょうか。例えば、東京書籍は第一がお一方と第二がお二人ですね。何かご意見ありましたらお願いします。

**○委員（平原 保君）** 東京書籍を第一、大日本を第二としたのですが、両者とも問題解決的な学習の過程がしっかりしている教科書で、そこが共通点だと思ひまして挙げました。特に増淵委員がおっしゃったように、大日本図書は日常的な中から数学というものを見出していく、数理的にものを見ていくということが重視されていて、私は短い言葉で「事象を数的に考察する活動を重視し」とまとめてしまったのですが、そういったものを含めて、非常に数学を見ていくということに別の視点が入っているということをすごく新鮮に感じて第二にしてあります。

**○教育長（浅沼昭夫君）** そうしましたら、平原委員のお考えとしては。

**○委員（平原 保君）** 第一は東書ですけれども、同じように問題解決をすごく重視しているということでは大日本図書だなと私は思っています。

**○教育長（浅沼昭夫君）** 優劣なかなかなかつけ難いという部分もあるということでもよろしいですか。そうしましたら、協議題としてまた今のご意見が出されたことも含めて、もう一回考えるチャンスがございますので、候補といたしましては、大日本図書を採択の候補として挙げて、拮抗していますので、もう一回教科書を見比べていただいて、どちらがいいかということを最終的に次の教育委員会で決定していただくということでもよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

**○教育長（浅沼昭夫君）** では、候補としては大日本図書といたします。

それでは、引き続いて理科の説明をお願いします。

**○統括指導主事（吉田周平君）** 理科についてご報告いたします。教科書の発行者は5社となります。SDGsを意識しており、評価の振り返り、単元のつながりなど工夫がなされて

いるとの報告がございました。また、ユニバーサルデザインにつきましては、各社見やすさを追求し、工夫を行っております。このユニバーサルデザインに関連する部分は各社の個性が表れているとの報告がございました。また、デジタルコンテンツの活用について1番の特徴として挙げられることは、探究的な取組を重視している点であり、主体的に学習する生徒の段階に応じた学習への対応について、非常に各社ともに特色が出ているとの報告がございました。理科については以上です。ご協議のほどよろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、ご質問ございますか。

それでは、理科について進めたいと思います。最初に日野委員、お願いいたします。

○委員（日野佳昭君） 第一に大日本図書、2番目として東京書籍を推薦します。

東京書籍は、問題の発見から結論、振り返りという探究的な展開がわかりやすい、巻末の科学史年表などもよい。図、写真が見やすい。確かめと応用が理解しやすいという理由です。

大日本図書は、問題の発見から、考察、解説という探究的な展開がわかりやすく、科学史があるのもよいと思います。課題、実験がわかりやすい。まとめ、単元末の問題、読解力問題の構成がよくまとまっていると感じ、こちらを推薦します。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、平原委員、お願いいたします。

○委員（平原 保君） 私も同じく、第一に大日本図書、第二に東京書籍を候補としたいと思います。

理科の学習というのは、自然の事物や事象に関わり、観察や実験などを通して、科学的に探究する資質を育成することが求められています。そこで、生徒が興味関心をもって積極的に自然に関わり、主体的に学習できるような教科書を使用することが重要だと考えました。

そこで、大日本図書を見ますと、単元の冒頭に見開きページで、「これまでに学習したこと」が示してあり、生徒が既習事項について確認することができます。また、小学校で学習した内容と学年が示してあり、小中学校の連続性のある学びへとつなげることができるように工夫されています。さらに、同ページ下段には、「これから学習すること」として項目が提示され、学習への見通しをもつことができるようになっていました。

実験について、目的・着眼点・必要なもの、手順、結果の整理のポイントまで、1ページにわかりやすく表記され、活用しやすいと考えます。また、トピック「基礎操作」には、実験器具の正しい使い方が明示されており、自然を探究するための基礎技能を着実に習得できるように配慮されています。また、QRコードを活用して、基本操作の動画や学習に役立つ情報ウェブページを見ることができます。

第二の東京書籍では、縦長サイズ判の教科書で、写真や図解・イラストなども豊富に掲載されています。特に、単元の導入部には、全画面のインパクトのある写真を掲載して、生徒が自然の事物や事象に興味関心をもって学習に取り組めるような工夫がなされています。単元末には、学習内容の整理として用語の解説が掲載されており、生徒が学習を振り返り、まとめをすることができます。続いて、「確かめと応用」の問題を解くことによって、生徒が自己評価に活用して、学習の補充や充実に役立てることができるようになっていました。

また、Dコンテンツも見やすくわかりやすく、各単元のポイントとなる事項についてのコンテンツが掲載されています。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） では、新島委員、お願いいたします。

○委員(新島 香君) 私は、第一が大日本図書、第二が教育出版です。

理由ですけれども、大日本図書は、各ページともふんだんに写真と資料があり、解説や課題のページなど、見やすくわかりやすかったのがよかったです。また単元の初めに、これまでに学習したこととして、小学校で習った内容がわかりやすくまとめて表示されているのがよかったです。また、単元の終わりには、まとめ、単元末問題と読解力問題とそろっていて、確認ができるのがいいです。あと、デジタルコンテンツは、全学年分を見ることができ、大変便利だと思いました。また、39ページ、暮らしを支える科学技術のページで、府中市の茅葺屋根の掲載がされていたのがよかったです。

次に、教育出版ですが、こちらは文字が大きめで読みやすく、強調文字や色文字などが活用されていて、大変教科書が読みやすかったです。次に、探究の進め方として、要所要所にわかりやすいマークが表示されていて、使いやすそうと思いました。また、デジタルコンテンツも、全学年、全教科を見ることができると同じく便利です。あと、1年生、地層のでき方のページに、府中市の多摩川の様子が写真で紹介されていたり、また、ほかの化石と堆積当時の巻頭のページでは、八王子市や昭島市など多摩地区の都市の写真が紹介されているのが、身近でいいと思いました。以上です。

○教育長(浅沼昭夫君) 続きまして、増淵委員、お願いいたします。

○委員(増淵達夫君) 私は、第一候補、学校図書、第二候補は啓林館としました。

学習指導要領の指導計画の作成のところで、見通しをもって観察、実験を行うことなどの科学的に探究する学習活動の充実、これが示されています。それから日常生活や他教科等との関連を図っていく、これも今回の指導要領の大きなポイントになるかなと思います。

観察、実験がどのぐらいあるかということで調べてみましたけれども、学校図書が87か所で最も多くて、次いで東京書籍、大日本、啓林館、それから教育出版となっていました。このうち、大日本と教育出版については、科学と人間という単元で観察と実験が取り上げられていなかったの、全ての分野で取り上げられているほうが望ましいのかなと考えました。

それから、探究的な活動がどのぐらい示されているかということでいくと、学校図書はなぜ理科を学ぶのかということから、探究、実験、そして結果の考察、振り返りという流れが非常にわかりやすく示されていると思いますし、何ができるようになったかとか、サイエンスカフェとか、そういった話題が非常に豊富に掲載されていると思いました。

同じように啓林館も観察、実験の数は学校図書ほどではありませんけれども、科学コラムの「科学で部活動をもっと楽しく」とか、「科学で料理をもっとおいしく」とか、「科学で災害に備えよう」など、日常生活や社会との関連に関する内容が興味深いと思いました。

以上の理由で第一候補、学図、第二候補、啓林館としました。

○教育長(浅沼昭夫君) それでは、私ですけれども、先生方が使い慣れている教科書というのは、東京書籍か大日本図書ということです。私は、今回は大日本図書を第一に推したいと思います。そして、第二に東京書籍ということです。

その理由なのですけれども、大日本図書は今までの教科書では中学校の観察で、一番困難である細胞分裂の観察の仕方に不満を私はもっていたのですけれども、それを今回、改訂では変えて、更にブラッシュアップされている印象を受けました。どうしても、この観察は、教科書と資料集なんかは、写真ですませがちなのですが、しかし実際に染色体を観察すると

いうこの経験は、私は今の子どもたちにこそ必要だと思っています。その点で、大日本図書が観察の仕方を変えたということで、この点を買いたいと思います。そして、加えてDNAの抽出、これは演示で写真で載っていますけれども、これもほかの教科書にはないと感じました。極めて簡単な方法で子どもたちに見せることができるという、そういうやり方でありますので、これを好ましく思いました。それから、最後にコロナ禍の中で、ワクチンなどの先端技術として、遺伝子工学の成果が、身近には報告されています。生命の不思議さ、命の尊さ、これは道徳教育に限らず、健全育成の諸課題に向き合う意味で重要だと考えていますが、性教育の必要性に鑑みまして、人の受精について、かなり大きな図版を使って丁寧に扱っているという点も私は好ましく感じました。したがって、大日本図書を第一に、東京書籍を第二に推したいと思いました。

それでは、結果を見ますと、大日本図書の評価が高いようですけれども、採択候補として大日本図書ということではよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○**教育長(浅沼昭夫君)** では、続きまして、音楽一般をお願いいたします。

○**統括指導主事(吉田周平君)** 音楽一般につきましてご報告いたします。教科書の発行者は2社となります。2社とも親しみやすく、生徒にとってわかりやすい内容で構成されているとのことでした。目標がきちんと明記されており、記入しやすい教科書、記入しやすい楽譜となっていることが各社とも特徴となっているということでもございました。取扱っている曲につきましても、生徒が知っている曲も多く、親しみやすい曲を取り上げているとのことでした。音楽一般については以上です。ご協議のほどよろしくお願いいたします。

○**教育長(浅沼昭夫君)** 何かご質問ございますか。

それでは、ご意見をいただきたいと思えます。音楽一般について日野委員、どうぞお願いします。

○**委員(日野佳昭君)** 調査研究資料を見ますと、学校の先生方は、教育芸術社を強く、多くの先生が推していることがわかりましたけれども、あえて教育出版を推薦します。

單元ごとの目的がわかりやすい、見やすい構成になっている。交響曲、雅楽、オペラ、歌舞伎、文楽などの説明がとてもわかりやすく見やすく記載されている。日本と西洋の音楽の歩みはとても興味深かったです。以上です。

○**教育長(浅沼昭夫君)** それでは、平原委員、お願いいたします。

○**委員(平原 保君)** 私は教育芸術社を候補としました。第一に表現「歌唱」教材の曲数が豊富であり、我が国の自然や四季の美しさ、文化や日本語のもつ美しさを味わえる教材、例えば「浜辺の歌」「赤とんぼ」「荒城の月」などを始め、外国の曲、心通う合唱曲「大地讃頌」「旅立ちの日に」など、幅広いジャンルから生徒の心に響く名曲が掲載されています。

第二に鑑賞曲については、我が国には郷土の伝統音楽と諸外国の音楽の中から、音楽を愛好する心情を育ていけるよう選出されています。また、鑑賞するに当たって、楽曲や作曲家についての説明、その音楽の特徴などがわかりやすく表記されています。

第三、歌舞伎や文楽など、伝統文化、世界の諸民族の音楽、ポピュラー音楽などがわかりやすく取り上げられてあり、生徒が音楽と生活の関わりをもって、生涯にわたり音楽文化に親しんでいけるよう工夫がされています。

また、デジタルコンテンツを活用して、楽曲の解説や音楽家のホームページを閲覧することもでき、教室での学習を補充、深化することができると思えました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 新島委員、お願いします。

○委員（新島 香君） 私も音楽は教育芸術社です。こちらワークシートが多くあり、学びの確認ができるところがよいと思えました。また、楽器、舞台、技法、手法など、写真で紹介されていて、大変わかりやすかったです。また、合唱曲がたくさん紹介されていて、この府中には合っているのではないかなと思えました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 増淵委員、お願いいたします。

○委員（増淵達夫君） 私は教育出版を選びました。

今回、学習指導要領では、「生活や社会において音楽が果たしている役割を感じ取れるもの」が新たに示されており、「我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、愛着をもつよう工夫する」、こういったことも新たに示されています。

どの教科書も生活や社会において果たしている役割が記述されていますが、教育出版は演奏者のアウトリーチ、音楽を通した教育活動や、音楽療法、こういったものが写真入りで紹介されていました。それから、教育出版は音についての物理的な側面から学習ができる内容を設定していて、教科横断的なカリキュラムマネジメントへの具体的な教材が示されています。そういったところを評価して第一候補を教出としました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 私ですけれども、私は教育芸術社を推したいと思えました。

1学年で合唱の姿勢と呼吸、リズムについてのゲーム、そして変声期の解説、イラストもわかりやすいということ。それから、合唱曲では全体の構成、歌い方の注意点などについても解説があり、それから言葉遣いで、楽典ではなく「音楽の約束」という、非常に子どもたちにわかりやすい言い方で示しているということ。それから、指揮のポイントも取り上げていますし、合唱に加えて、創作などの学習活動も配慮されているのかなど。

そして、目を引いたのは、世界及び日本のポピュラー音楽についてのジャンル分けの解説がございまして、これが子どもたちにとって音楽活動の親しみやすさをもたせているのかなと思ひまして、教育芸術社を採択したいと思ひました。以上です。

それでは、分かれましてね。これは教育芸術社のほうが評価が高いという結果ですけれども、それでよろしいですか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、教育芸術社を候補として挙げたいと思いますが、ほかの委員さん方のご意見を基にして、最終的な決定のときにご意見をいただけたらと思います。

続きまして、音楽器楽、お願いいたします。

○統括指導主事（吉田周平君） 音楽器楽につきましてご報告いたします。教科書の発行者は2社となります。2社ともユニバーサルデザインを意識したフォントや色遣いとなっており、実演写真が多く、生徒にとってわかりやすい内容で構成されているとのことでございました。音楽器楽については以上です。ご協議のほどよろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、最初に日野委員、お願いいたします。

○委員（日野佳昭君） 器楽の教科書は、音楽の教科書と同じものがとても使いやすいのではないかとということで、こちらも教育出版を推薦しますが、どちらの教科書もよくできて

いますので、どちらを選ぶということではなく、音楽でも推薦した会社を選びます。教育出版です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、平原委員、お願いいたします。

○委員（平原 保君） 私は教育芸術社を候補にしました。和楽器や諸外国の楽器についてバランスよく取り上げられていると感じました。目次では楽器ごとに色分けされていて、各ページの上部に目次と同じ色分けがされていて、活用しやすいように工夫されています。また、各楽器の特徴が捉えられるよう、楽器全体と細部の写真が掲載されています。また、インターネットで各楽器の専門家について紹介が見られる二次元コードがついていることがよいと思いました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 新島委員、お願いいたします。

○委員（新島 香君） 私は、教育芸術社を選びました。理由は楽器の演奏方法など、写真で紹介があり、わかりやすいところがよかったこと、あと各楽器の練習曲も多く用意されていてよいと思いました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 増淵委員、お願いいたします。

○委員（増淵達夫君） 私は教育出版を選びました。和楽器の取り上げ方は両社同数でした。掲載曲数は教育出版が132、教芸が101ということで、教育出版が多かったです。

そして、教育出版は、「何が同じで、何が違う？」というページを設けて、吹く楽器、弾く楽器の各々について、音の出る仕組み、構え方に着目して、音色等の特色を考えさせる、こういった教材が掲載されていたので、教育出版を第一としました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 私ですが、私も音楽一般と同様に楽譜などが読み取りやすく学校で使うこともできるということについて、そして同時に、先ほどもご意見がございましたけれども、音楽一般と同じ会社がいいのではないかということで、教育芸術社を推したいなと思いました。以上であります。

それでは、ご意見のまとめですけれども、2つに分かれましたが、教育芸術社の評価が高いということで、こちらを候補にするということによろしいですか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、次に行きたいと思います。美術、お願いいたします。

○統括指導主事（吉田周平君） 美術につきましてご報告いたします。教科書の発行者は3社となります。表現の学習において、生徒自ら強く表したいことを心の中に思い描き、豊かな発想で子どもたちが構想をするために、作品テーマにつきましても、いろいろな方向性の作品づくりについて、写真を交えた中で紹介しております。また、それに至る経過を学習の流れでも掲載されており、資料のページが充実しているとの報告を受けております。安全指導への取組に関する記述も増えており、資料集がなくても個人学習が進められる仕様となっているとのことでした。美術については以上です。ご協議のほどよろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、ご意見をいただきたいと思います。

美術につきまして、日野委員、お願いいたします。

○委員（日野佳昭君） こちらも、調査研究資料を見ますと、先生方は光村図書を推している方が大変多いということがわかりましたが、こちらもあえて1番には開隆堂を推薦します。絵や彫刻、鑑賞、デザインや工芸で学ぶことがよく詳しく書かれています。作品を作る

手順がとてもわかりやすいと感じました。学習を支える資料もわかりやすく、まとめの資料も大変理解しやすいです。光村図書も同じような構成で理解しやすくは作られています、開隆堂を推薦します。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、平原委員、お願いいたします。

○委員（平原 保君） 私は第一に光村図書、第二に開隆堂を候補とします。

まず、光村ですが、表現と鑑賞ごとのねらいを題材名の下に「目標」としてわかりやすく示してあり、生徒が目当てをもって主体的に学んでいけるよう配慮されています。

第二に日本の美術作品が豊富に掲載されており、生徒が自身の経験や社会科の学習等と結びつけて、日本の美術文化に興味関心をもって関わる資質や能力が育まれていることが期待できます。また、外国の優れた美術作品が掲載され、世界の美術文化に興味関心をもっていくことができると考えました。

また、生徒が対話しながら鑑賞している写真が数多く掲載されています。さらに二次元コードを活用して、音声ガイドで作品の解説を聞きながら鑑賞することができます。こうして、美術鑑賞の楽しさや魅力を味わうとともに、府中市美術館における美術鑑賞の経験も生かして、生涯にわたって生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力が育まれていくことが期待できます。

第二の開隆堂出版においては、1年生の巻頭において「学びの地図」が掲載されていて、生徒が興味関心をもって美術の学習に取り組んでいけるよう工夫されています。また、表現と鑑賞ごとの狙いを題材名の下に「学習の目標」として、3つの観点から目標が示してあり、教師が観点別の狙いを明確に捉えて授業を進めることができるよう配慮されています。また、二次元コードも活用することができます。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、新島委員、お願いいたします。

○委員（新島 香君） 私も美術は光村図書を1番、開隆堂を2番としました。

理由ですが、光村図書は、学習を支える資料が見やすいところがよかったこと、あと生徒作品には、作者の言葉として様々記載されていてよかったなと思いました。2・3年生の教科書が1冊で使いやすいと思いました。

次に、開隆堂ですが、学びの資料で漫画やアニメーションについて2ページにわたり掲載されていて、生徒が興味をもって見られそうだなと思いました。また、日本語指導が必要な生徒への対応として、7か国後に対応したCDがついているということなので、こちらは指導に当たってはよいのかなと思いました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、続きまして、増淵委員、お願いいたします。

○委員（増淵達夫君） 私は日本文教出版を選びました。

学習指導要領では、「美術の働きや美術文化」に関する事項では、生活や社会と文化は密接に関わっていることや、社会に開かれた教育課程を推進する観点などから、従前の生活を美しく豊かにする美術の働きに関する鑑賞と美術文化に関する鑑賞を大きく一つにまとめられました。美術の働きや美術文化に関する事項ですとか、表現に関する題材数、それから表現に関する技法の取扱い、これらは3社の中で日本文教出版が一番たくさん取扱っていました。

それから、日本文教出版で「何でこれが美術なの？」というものや、「季節を楽しむ心」、「暮らしやすさのデザイン」とか「笑顔が生まれる鉄道デザイン」などのようにデザインと

日常生活というのをかなり意識して編集されていると思ったものですから、日本文教出版を選びました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 最後に私ですが、私は3社の教科書のうち、光村図書と開隆堂出版が美術1と美術2・3の2冊構成、文教出版は美術1と美術2・3の上下版で3冊構成です。その中から、私は日本文教出版を採択したいと思いました。

市内の作品展というのが美術館で開催されていますけれども、非常に発想とか、配色、完成度が高く驚いている状況であります。美術の時間が充実しているのかないつも感じています。そうしたことから採択の理由といたしまして、美術1では生徒作品を数多く紹介し、創造性を刺激し、美術の世界の楽しさなどの発想を広げているという点があり、そして、2つ目に美術との出会いが主としてアニメーション、生活の中のデザイン、身近な素材を使つての工芸論、中学生の興味関心を高める、そういう構成になっているという点で、私は日本文教出版を推したいと思いました。以上になります。

さて意見が分かれました。光村か文教出版ということですがけれども、いかがいたしましょうか。日野委員いかがでしょうか。

○委員（日野佳昭君） 持ち越しでもう1回見てみたいです。

○教育長（浅沼昭夫君） どうでしょうか。どれか一つを決めておきたい。そしたら、私が議案提出者ということですので、私に付託で文教出版を候補として挙げて、そしてそれについて皆さん方の意見をもう1回見ていただいて決めていただくということで、ワンクッションを置いてという意味合いで、文教出版を候補としてよろしいですか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） では、よろしくお願いします。もちろん、文教出版を選んだ増渕委員や私も含めて、ほかにも当然あり得ることですので、よろしくお願ひいたします。

それでは、続きまして、保健体育をお願いします。

○統括指導主事（吉田周平君） 保健体育につきまして、ご報告いたします。教科書の発行者は4社となります。各社、小学校・中学校の連携だけでなく、小学校・中学校・高等学校のつながりを意識した教科書の構成となっています。SDGsに関することや感染症についての記述がかなり増えてきており、各社ごとに二次元コードやデジタルコンテンツを活用して生徒が学びやすくなるような工夫がされていることが特徴であるとのことでした。保健体育については以上です。ご協議のほど、よろしくお願ひいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、よろしいでしょうか。日野委員、お願ひいたします。

○委員（日野佳昭君） 保健体育は1番に学研教育みらい、2番に大修館書店を推薦させていただきます。どちらもストレスへの対処法などを詳しく、わかりやすく書いてあります。さらに学研教育みらいは、感染症の単元でいじめ、人権についても言及しており、こちらを1番に推薦します。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 平原委員、お願ひいたします。

○委員（平原 保君） 私は第一に大修館書店、第二に大日本図書を候補としました。

大修館書店については、「つかむ」「身につける・考える」「まとめる・振り返る」と構成されていて、見開きのページに学習過程と資料がわかりやすくレイアウトされています。そのため、生徒が見通しをもって主体的に学習することができ、健康・安全に関する知識・技能

が身につく、思考力・判断力が高まっていくと期待できます。また、各章末には、章のまとめがあり、知識、技能の問題、思考判断力の問題があり、学習を振り返ることができます。第三に、1年「調和の取れた生活」には、府中市立学校給食センターと府中市立中学校の給食の様子を紹介する写真が記述され、生徒が興味関心をもって食事と健康について考えることができると思います。また、1年の「心身の発達と心の健康」については、ストレスや不安への対処のことが学ぶことができ、生涯を通じての心身の健康の保持増進につなげられるよう工夫されていました。あと、3年生の感染症予防では、現在のウィズ・コロナの新しい生活様式を考える上でも、喫緊の課題として重要な学習だと考えました。

また、大日本図書についても、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現し、健康を保持増進するための全体像が図式で示されており、生徒が中学校3年間の学習に見通しをもって具体的に学べるところがよいなと思いました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 新島委員、お願いいたします。

○委員（新島 香君） 私は、まず第一が大修館、第二が学研教育みらいです。

理由ですが、まず、大修館は、文字が大きく、写真やイラストがふんだんに使用されていて、読みやすくわかりやすかったこと。あと薬物乱用と健康のページで、薬物が写真で紹介されていてわかりやすいです。ストレスへの対処の仕方とリラクゼーションの方法について、ページ数を取ってわかりやすく記載されているところがよく、さらにクローズアップとして悩みへの対処法が記載されているところがよいと思いました。

次に、学研教育みらいですが、こちらも文字が大きめで読みやすかったです。また、避難生活時に必要な体力についてや、避難生活が長引いたときに起きる健康の問題点が運動することで解消されるということが、具体的な運動例で示されているところがよいと思いました。

○教育長（浅沼昭夫君） 増渕委員、お願いいたします。

○委員（増渕達夫君） 私は第一候補を学研、第二候補を大修館としました。

今回の学習指導の改訂で、がん教育とストレス対処についての技法の内容が加わっています。特にこのストレスについては、18歳未満の子どもの自殺防止という観点から、ストレスの対処は極めて重要で、全国的に見ると自殺者は減っているにもかかわらず、18歳未満が増えているという傾向がありますので、ストレスへの対処に関する記述に着目しました。それから3点目としては、性教育について、一昨年度、かなり話題になりましたので、この点に着目しました。

がん教育については、大修館、学研、東書の記事が充実しているなと思いました。それから、ストレスについても大日本と大修館、次いで学研、東書です。性についてですけれども、東京書籍、大修館、学研と充実しているのですが、特に性的マイノリティの問題、これを扱っているのは東書と学研で、東書が資料、学研がコラムでありました。性的マイノリティの問題は、指導要領には具体的に入っていませんが、一人一人に配慮したきめ細かい対応が求められます。教科書に載っていれば、指導について一定の水準が確保できるのではないかと考え、私はこれを決め手にしました。その意味で、学研を第一、そして第二を大修館としました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、私ですが、保健体育は大日本図書を採択したいと思います。その理由なのですが、感染症について、これは病原体の電子顕微鏡の写真とい

うことで丁寧に扱われている。イラストを多用して視覚に訴えながら症状の予防、生活習慣などについて説明しているということです。それから、性に対する中学生のもつ関心の内容データを挙げて、思春期の心の変化ということで、子どもたちがみんなそうなのだなということの実態の共有化を図る、心情に配慮した取り上げ方かなと思いました。それから心肺蘇生法を取り上げていること。それから、見開きで文字と図版というあり方。それからミニ知識というところで分かれているということで大日本図書を推したいと思います。

分かれましたが、第二候補まで挙げると、大修館、学研みらいの評価が高いようですけれども、大修館ということでもよろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

○**教育長(浅沼昭夫君)** ご意見が分かれていますから、また後ほどじっくりご覧になっていただいてということでもよろしくをお願いします。

続きまして、技術・家庭の技術分野をお願いします。

○**統括指導主事(吉田周平君)** 技術・家庭科、技術分野につきましてご報告いたします。教科書の発行者は3社となります。体験的な学習が重視されており、ユニバーサルデザインを活用した見やすさだけでなく、体験的な学習のポイントや補足説明などの記述に関して、各社工夫をしているということが特徴として挙げられるとの報告を受けております。また、子どもたち、生徒たちの段階に合わせた作業内容が記載されており、個々に学ぶ、学習しやすいように内容が構成されているとのことでした。技術分野については以上です。ご協議のほどよろしくお願ひいたします。

○**教育長(浅沼昭夫君)** それでは、ご意見をいただきたいと思います。日野委員、お願ひいたします。

○**委員(日野佳昭君)** 技術は、第一に開隆堂、2番目に東京書籍を推薦します。

どちらの教科書もわかりやすく、読みやすくできております。開隆堂は写真がきれいで見やすい。各領域からの先輩のメッセージもあり、こちらを推薦します。また、道具の使い方も詳しく書いてあります。2番目として、東京書籍も同じように道具の使い方が詳しく、また資料が多く、わかりやすく感じました。以上です。

○**教育長(浅沼昭夫君)** それでは、平原委員、お願ひいたします。

○**委員(平原 保君)** 私は第一に東京書籍、第二に開隆堂を候補にしました。

東京書籍については、第1編の「材料と加工の技術」では、生徒の身の回りに使用されている技術がわかりやすく紹介されています。また、材料の特性や利用例、材料に適した加工法など、鮮明な写真やイラストなどを用いて理解の促進や技能の向上につながることを期待できました。

また、東京書籍第4編「情報の技術」では、情報技術が生活や社会に変化をもたらしたことや、情報化社会の特性や安全性について考え、情報モラルの大切さについて理解できるように構成されています。また、巻末にはコンピュータの基本操作などについて、豊富な資料が掲載されていました。

一方、開隆堂の第1編では、やはり第1編がわかりやすかったのですが、木材の特徴や加工の技術、鮮明な写真、写実的なイラスト、そして顕微鏡図も用いて、わかりやすく説明されています。また、ほかの材料等の特性や利用例、加工方法など、写真やイラスト、マトリ

ックスなどを用いて、端的に表現されていて、非常にわかりやすいです。また、第3編「エネルギー変換の技術」では、電気の利用や運動について、身近にある製品や道具を取り上げて、仕組みや特徴をわかりやすく説明してあります。また、部品や工具など名称や使い方など詳細な説明があり、基礎的な理解、技術の習得につながることを期待できます。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、新島委員、お願いいたします。

○委員（新島 香君） 私は、第一が東京書籍、第二が教育図書です。

理由は、東京書籍が、単元の最初のページや各所に、小中学校のどの学年のどの教科と関連があるか記載されているところがよいと思いました。また、Dマークで資料を見ると、一度開けば全てのコンテンツが見られるところが便利です。

次に、教育図書ですが、字が大きく読みやすく、重要な文言は色づけや太文字など強調されていてわかりやすいところがよく、参考資料表記も一目でわかりやすくよかったです。また、別冊になっている技術ハンドブックは使いやすそうだなと思いました。また、巻末に先輩からのメッセージとして、技術系専門高校について知ることができるところがよいと思いました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、増渕委員、お願いいたします。

○委員（増渕達夫君） 私は教育図書を第一としました。

今回の学習指導要領の改訂で、情報の技術、情報セキュリティがかなり重視されていて、特に小学校のプログラミング教育の関連がポイントになるのかなと思います。

教科書を分析してみると、情報の技術に関する記述量としては、教育図書、開隆堂、東書の順になっています。教育図書は、「つくって・育てて学ぼう」、「じっくり学ぼう」と、「学びを深め生かそう」という、学習の段階が明確に示されており、そういった意味では非常に使いやすいのかなと思って教育図書としました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 私は、技術分野は開隆堂出版を選び、東京書籍が次にいいのかなと思いました。

開隆堂なのですからけれども、文字とか写真、図版の配置構成が見やすく整理されていてわかりやすい。それからQRコードがページ右下に配されて、制作技術工程が動画等で示され、他社に比べて豊富で充実しているということです。それから、ページ下を使って、豆知識というちょっとしたことが関連事項として記載されて、共有を図る工夫があるのかなということで、第一に開隆堂、続いて東京書籍と考えました。以上です。

さて、分かれました。東京書籍を第一が2人、そして第二が2人。それから、教育図書は第一候補が1人、第二候補が1人。開隆堂は第一候補が2人、第二候補が1人です。

東京書籍若しくは開隆堂ということになりますけれども、特段ご意見ありますか。

○委員（新島 香君） 増渕委員の2番はないのですか。

○委員（増渕達夫君） 第二候補としては、開隆堂を推薦します。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、同数ではございますが、開隆堂を採択候補ということにしてよろしいですか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） こちらも当日にご意見がありましたらお願いします。

続いて、家庭分野お願いします。

○**統括指導主事（吉田周平君）** 技術家庭科、家庭分野につきましてご報告いたします。教科書の発行者は3社となります。各社ともに題材ごとのデジタルコンテンツが充実しており、見やすく、読みやすい表現やSDGsを意識した内容構成となっているとの報告がございました。また、生徒たちが見通しをもって学習できるよう工夫されていることも特徴となっているとのことでした。家庭分野については以上となります。ご協議のほどよろしくお願いいたします。

○**教育長（浅沼昭夫君）** それでは、ご意見をいただきます。日野委員、お願いいたします。

○**委員（日野佳昭君）** 技術と同じなのですが、1番に開隆堂、2番に東京書籍を推薦します。理由は、ともに写真・イラスト・図などを使用して、手順が一番わかりやすく記載されていると感じました。その中で、開隆堂は色彩写真などが見やすい、防災教育があるということで開隆堂を1番にしました。以上です。

○**教育長（浅沼昭夫君）** それでは、平原委員、お願いいたします。

○**委員（平原 保君）** 私も同じく、第一に開隆堂、そして第二は東京書籍を候補にしました。

まず、開隆堂についてですが、ガイダンスにあるキーワードの中で、家族、家庭と地域の生活、第二のキーワードが「自立と共生」、第三は生活の見方、考え方などがありますが、この中の特に自立と共生をキーワードにして、課題意識をもって生徒が家庭科の学習に取り組めるようになっています。具体的には、家族と家庭生活の導入において、手形や足形など、今の自分とこれまでのイラストは、時間軸の視点から、生徒自身の生活を見直していく効果的な資料提示があります。また、幼児との関わりや家庭生活と地域での活動、高齢者との関わりに関する内容についての配列は、時間的、空間的な広がりのある学習ができるように構成されています。また、先ほど日野委員も説明されましたが、1日に摂りたい食品の分量を実物大の写真資料で非常に鮮明でわかりやすく効果的になされていると思いました。

それから、住生活では、幼児や高齢者の安全対策、防犯・防火対策、自然災害への備えなど、住生活の安全、生命について課題意識をもって取り組んでいけるように工夫がされていることから第一にしました。

第二に東京書籍ということで、食生活について、年度当初に学習する指導計画があり、小学校家庭科での学習と関連して、食事の役割、食品の栄養素、各食品の特徴など、生徒が興味をもって学習できるように豊富な資料が掲載されていました。以上です。

○**教育長（浅沼昭夫君）** 新島委員、お願いします。

○**委員（新島 香君）** 私は、第一が教育図書、第二が東京書籍です。

理由ですが、まず教育図書は、字が大きく、読みやすく、重要な文言は色づけや太文字など強調されていてわかりやすいところがよく、参考資料表記も一目でわかりやすいところがよかったです。また、家にある食材で作れるような料理が多数紹介されているところ、安全面や衛生面についての注意点が各所に記載されているところがよいです。災害時に、衣食住について役立つ資料が掲載されているところがよかったです。食品群の表で、必要摂取量をどの食材でどのくらい摂取できるかがわかりやすく、食材が多く紹介されているところがよかったです。調理実習での材料にも、食品群が記載、表記されているところがよいと思いました。また、各章の最初に自立度チェックがついているところがよいです。

2番目の東京書籍ですが、こちらは各章の小学校で学んできたことの関係性が視覚的にわかりやすくよかったです。また、巻末付録に防災、減災手帳がついているのがいいと思いました。また、主に地震について記載されているが、水害についての対応等の情報もあるとなおよいと思いました。あとDマークの資料では、一度開けばコンテンツが全て見られるところが便利です。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、続きまして、増淵委員、お願いいたします。

○委員（増淵達夫君） 私は、第一候補は開隆堂、第二候補は東京書籍としました。

指導要領の改訂のポイントとしては、高齢者など地域の人々と協働することに関する内容と、計画的な金銭管理、消費者被害への対応に関する内容が新設されています。特に、高齢者との関わりに関する内容を中心に見ましたが、開隆堂は地域参加している高齢者の存在を紹介したり、簡単な介助方法を紹介したりしています。あと、子どもと高齢者との関わりなど、具体的な事例で紹介されているところがいいかなと思いました。

東京書籍は、高齢者の社会参加について、三浦雄一郎や若宮正子などを事例として取り上げたり、中学生が地域でできることは何かを考えさせたりするような活動が掲載されていました。それから、「消費生活・環境」の内容については、教育図書、開隆堂、東書の順ですけども、大きな差はないと思いました。

以上から、開隆堂を第一、東書を第二としました。

○教育長（浅沼昭夫君） 私ですが、私も先ほどより話がありましたように、委員さん方と同じように技術分野との関連で、同じような理由から家庭科の分野も開隆堂をたたき台に考えました。以上であります。

そうしますと、これは開隆堂のほうが評価が高いという結果になりましたけれども、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、外国語についてお願いいたします。

○統括指導主事（吉田周平君） 外国語科英語につきましてご報告いたします。教科書の発行者は6社になります。各社とも小学校において学習をした英語を意識して、中学校1年生のスタートの段階での導入方法が工夫されており、子どもたちの実践的コミュニケーション能力の育成を図る内容が充実しているとの報告がございました。特に、スピーキング、リスニングにつきましては、二次元コードを取り入れながら、デジタルコンテンツを通して学習できるようになっていることが今回の特徴となっているとのことでした。英語については以上となります。ご協議のほどよろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、日野委員、ご意見をお願いいたします。

○委員（日野佳昭君） 英語は、1番に教育出版、2番に光村図書を推薦します。

教育出版は、年間を通して順序立てて課題をこなす内容になっている。巻末の「Activities Plus」は、自分で学習し話す力をつける構成がいい。文法がわかりやすく書かれている。3年の最後にディベートの単元まで行くのはいい作りだと感じました。

光村図書は、単元の目標がListen、Speak、Writeと全体の構成が理解しやすくなっています。文法も丁寧に記載されています。「You can do it」を単元後に挟んで、リスニング、スピーキングの練習ができるのもよいと思います。

○教育長（浅沼昭夫君） 平原委員、お願いいたします。

○委員（平原 保君） 私は、第一に開隆堂、第二に光村図書を候補といたします。

まず、開隆堂についてですが、第一学年では、小中の接続単元において小学校で学習した語彙や表現を踏まえた活動が設定されています。

第二に、各単元の初め「Scenes」として漫画のセルフ形式にして、学習内容が捉えられやすいように工夫されています。また、新出文法が会話表現の中に取り入れられ、生徒にとってわかりやすく工夫されています。

第三に、本文を通して学んだことを用いて簡単な語句や文を用いて伝え合う活動を行う構成になっていて、表現力が高められると考えます。

第四に、各学年で扱う内容が、文化、スポーツ、歴史上の人物や出来事、環境問題、平和学習など、いずれも生徒が興味関心をもって取り組み、探究心を高めながら英語を学んでいくことが期待できます。

第五に、巻末資料が充実しており、振り返りや基礎基本の定着のために活用できる。また、アクションカードが様々な学習活動に活用することで生徒が意欲的学ぶことができる。ページ右上に、二次元コードがあり、音声教材を利用することができます。

第二に光村図書です。こちらは3年間を通したストーリー性があり、主な登場人物が中学生として生活や学習の中でコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、英語で情報や考え方を表明したり、伝え合っている姿に生徒が共感したり、自分を見つめたりしながら学習を進められると期待できます。部活動、職場体験の報告、修学旅行、合唱コンクールなど、生徒の身近な場面が取り上げられています。

また、1年生の小中接続単元も、先ほどと同じように丁寧に扱われています。

第3学年のまとめでは、外国からの転入生が日本における3年間の中学校生活を振り返るスピーチや日本を旅立っていくシーンがあり、数年後の再会シーンで締めくくられている。こうした構成により、この教科書を使って学ぶ中学生自身が、中学校生活を振り返ったり、学んだり、感じたことを英語で表現しようとする意欲が高まると期待できます。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、新島委員、お願いいたします。

○委員（新島 香君） 私は、まず第一が三省堂です。2番目が光村図書です。

理由ですけれども、三省堂は、まず見やすいということ。それから、デジタルコンテンツでは本文との音声聞いて便利である。また、巻末の資料に英語でできるようになったことリストがあり、また、付録には会話表現があるのがいい。また、ロールプレイシートで、会話がトレーニングできるところがよいと思いました。

次に、光村図書です。こちら、巻末の資料と付録で、英語でできるようになったことリストがあったり、また英語の仕組みがわかりやすく見られるのがよいと思いました。デジタルコンテンツは、三省堂同様よかったです。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、増淵委員、お願いします。

○委員（増淵達夫君） 私は、第一候補は開隆堂、第二候補は啓林館としました。

今回の指導要領の改訂で、「話すこと」についての中で、「やりとり」という領域が新たに設定されています。この「話すこと」のうち、「やりとり」についての活動が多く掲載されている教科書は、開隆堂が一番多く、その次が啓林館、その次が三省堂です。それから、「話す

こと」の「やりとり」と「発表」の活動数については啓林館、開隆堂、東書という順番ですので、啓林館、開隆堂は、話すことについてかなり充実していると思いました。

その中で、開隆堂を選んだのは、「Scenes」、英語でやり取りの漫画があって、それから「Think」「Retell」「Interact」という段階を踏んでいって、コミュニケーション場面も漫画で具体化して、活用まで踏み込んでいるというところが優れていると思いました。

啓林館は、1年生で自己紹介しよう、インタビューしよう、日記を書こうというようなことを、2年生、3年生で「Read & Think」というような編集上の工夫がされていて、待ち合わせとか、旅の準備とか、いろいろなコミュニケーションを取れるような工夫はあるかなと思いましたけれども、比較して開隆堂を第一という印象でした。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、私ですが、私は光村図書を引き続き採用したいと考えました。前回の採択で教科書は変わりましたが、当初使い慣れないという報告がありました。使うにつれてそのよさがわかってきたという声を強く思いました。

教科書が変わることによって、指導あるいはワークシートの作成、授業の進め方等々、授業改善につながって、指導力向上につながるということはもう事実でしょうけれども、今までの実装を通して、更に経験を活用して積み上げるということも必要かなということで、引き続き採用したいと考えました。

特徴としては、場面設定がかなり日常生活に密着した内容だということですね。それから、帯教材と言っているのですが、スピーキングへの意欲づけです。そして一番強く思ったのは、特徴としては、前の版と同じように、ユニットごとにQRコードがあって、英語のつづりと発音、会話動画など、子どもたちの予習復習、家庭学習に役立つのは光村ではないかなといった次第です。以上であります。

それでは、第一の候補で言うと開隆堂がお二方、そして三省堂がお一人、教育出版が1人、光村図書が1人ということですが、ちょっと分かれてしまいましたが、第二候補まで入れると、光村ということになるかと思えますけれども、いかがでしょうか。

（「異議なし」と声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） なかなか甲乙つけ難いところもありますけれども、第一希望ということで光村図書を採択候補ということで挙げて、更にご意見をまとめていけたらいいかなと思いますので、よろしくお願いします。

それでは最後であります。道徳であります。説明をお願いします。

○統括指導主事（吉田周平君） 道徳科につきまして、ご報告いたします。教科書の発行者は7社となります。各社とも今日的な課題で生徒の興味・関心を引きやすい内容を取り上げ、配慮しているという特色がございます。構成につきましても、各社とも別冊ノートを用意するなどの工夫をして特色を出しているとの報告がございました。また、生徒が自己評価により、学習の成果を振り返ることができるようにするために、各社で様々な工夫が施されました。道徳科については以上です。ご協議のほどよろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、ご意見をいただきたいと思えます。日野委員、お願いいたします。

○委員（日野佳昭君） 道徳は1番に東京書籍、2番に教育出版を推薦します。

どの教科書も教材の最後に発問例を記し、学ぶ手引きを示していきなりわかりやすくなっている。その中でも、東京書籍と教育出版はいじめや命についての教材が多く記載されています。中学でもいじめの問題をよく考え議論していただけるとよいと感じました。なので、第一に東京書籍、第二に教育出版を推薦します。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いては、平原委員、お願いいたします。

○委員（平原 保君） 私は第一に日本文教出版、第二に光村図書を候補にしました。

まず、日本文教出版ですが、第一にこの教科書はテーマごとに題材が整理されていて、生徒が課題意識をもって学び、自己を見つめ、人間としての生き方について考えを深められるよう工夫されていると感じました。また、教師が生徒の実態に応じて意図的、計画的にしやすくと考えます。特に、各学年において、テーマ、「いじめと向かい合う」について重点化されており、多くの題材が配列されています。この教科書には、いじめ問題の解決に向けて、道徳の授業で重点的に取り組んでいく大きなメッセージが込められていることが伝わってきました。第三に、プラットフォームでは、いじめの背景や状況、いじめの構造、人権課題への取組等について、学習内容を他教科や活動とつなげて考える、視野を広げるコラムが掲載されています。

第二に光村図書です。重要課題であるいじめ問題に関する題材が各学年の発達段階に即して数多く掲載されています。また、情報モラルの題材を取り上げており、インターネットでの情報発信の重要性や、よりよい情報化社会に向けての情報モラルと、ネットいじめ等について考える機会が与えられています。また、ほかのテーマについても、データや複数の資料、考える教材、ゲーム的な話し合い活動、漫画形式の教材など、生徒が自己を見つめ、広い視野から考え、人間としての生き方について考え、深められる題材が豊富に掲載されています。

以上から、第一に、日本文教出版、第二に光村図書といたしました。

○教育長（浅沼昭夫君） 新島委員、お願いいたします。

○委員（新島 香君） 私は第一があかつき、第二が光村図書です。理由ですが、まずあかつきは、中学生が興味をもって考えるのにより題材が多いと思いました。また、文科省発行の「私たちの道徳」に掲載されていた教材が多いとのことで、これまでの授業経験を生かしつつ、より深い学びへとつなげられる授業ができるのではないかと期待できると思いました。付録の道徳ノートは、授業でも使いやすそうであり、生徒の振り返りができるのがよいと思います。教科書が開きやすかったです。次に、光村図書です。こちらも各内容の終わりにある「考えよう」、「見方を変えてつなげよう」とあり、多角的、多面的に思考を広げることができるようになっていくところがよいと思いました。また、日本各地の伝統的なお祭りや文化継承を取り上げられているところ、それからそれぞれの冒頭に二次元コードがあり、関係する資料などが見られてよいと思いました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 増淵委員、お願いいたします。

○委員（増淵達夫君） 私は第一候補を廣済堂あかつき、第二候補を光村としました。

今回、特別の教科道徳になった背景の一つには、いじめの問題があります。道徳教育の改善に向けた提言では、学年が上がっていくにつれて、単なる読み物だけではなくて、児童・生徒が多面的、多角的に考えることができるようにすること、現実社会で顕在化している生命倫理、情報倫理、環境問題、こういった素材を積極的に活用することが示されました。こ

うしたことを踏まえ、「情報モラルや現代的な課題を扱っている教材の数」が多い教科書は、光村、日文、学研です。

廣済堂あかつきの教科書は、「考える・話し合う」、そして考えるべきテーマと複数の問いが置かれていて、学習の水準の確保を図っています。それぞれの題材ごとにそういったことがあって、単発の発問の仕方ではないということ。それから、1年生から3年生までの各教材の最後に、先哲の言葉が添えられています。一言なので、子どもたちが道德の学習が終わってから、道德的価値をさらに深く探究する手がかりになるような工夫があります。マザーテレサやマンデラ、カント、ニーチェなどの言葉は、高等学校の倫理への接続などの観点からも工夫されていると思いました。

光村は、教材の最後に発問例の「考えよう」、異なる視点から考察できるよう「見方を変えて」、深く考えたり他教科との関連を図ったりすることができる「つなげよう」が掲載され、道德的価値を深める工夫が見られます。廣済堂あかつきと光村は甲乙つけ難いところがありますが、いじめについては、単発で終わらずに複数の資料があったりして、いじめだけではなく様々な価値を深めていくということ、それから生涯にわたって価値を探究する基盤を育成するというのを考えると、先哲の一言というのは、私は捨て難いと思って廣済堂あかつきを第一候補にしました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、私は、光村を推したいと思います。内容ですけれども、読みやすい表現とともに、目当ての明示、教材の手引きなど、更に学習活動が進めやすいということでもあります。それから、情報モラルや現代的な課題を扱っている教材が充実している。そして、そのボリュームが明らかに1年生から3年生までの発達段階に配慮されているかなと思いました。それから、学年ごとに目指す姿として、内容、項目と現代的な課題との関わり、そして、他教科領域との関わりというのが一覧表としてまとめられ、教育活動全体を通した道德教育の理念が明確かなと思いました。それから、社会を支える様々な職業人の扱いが豊富で、しかもその扱いが発達段階に対応していると読み取りました。

したがって、私は光村図書を推したいと思います。以上であります。

そうすると、あかつきを第一に推したい方がお二人、それから光村図書は1人、第二候補としては、お三方ということですので、分かれたね。

それでは、第二候補もということですので、光村を第一の採択の候補に挙げるということによろしいですか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、協議2番の教科用図書（中学校）の採択候補の選定についてですが、国語は光村図書、書写が教育出版、それから社会科の地理的分野が帝国書院、それから歴史的分野が東京書籍、公民的分野が帝国書院、地図が帝国書院、数学については大日本図書、理科については大日本図書、音楽一般は教育芸術社、器楽が同じく教育芸術社、美術ですが、日本文教出版、保健体育が大修館書店、それから技術・家庭の技術分野が開隆堂、家庭科分野も同じく開隆堂、外国語（英語）が光村図書、そして道德が光村図書ということによろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、ただいまの協議を踏まえまして、次回の定例会までに

更に検討を加えて、熟考していただきまして、お考えを述べていただきまして、最終決定していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

————— ◇ —————

◎教科用図書（特別支援学級）の採択候補の選定について

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて、協議の3番について説明をお願いします。

○統括指導主事（吉田周平君） 最後に、小学校・中学校特別支援学級の教科書についてご報告いたします。学校教育法附則第9条により、特別支援学級では、検定教科書以外の図書の使用が認められています。特別支援学級では、毎年、採択替えができることから、小学校・中学校それぞれで調査研究のための委員会を組織し、検討してまいりました。

まず初めに、中学校特別支援学級教科用図書についてご報告いたします。第一中学校、第二中学校、第四中学校におきましては、全てが検定教科書を選定候補とするとの報告を受けております。なお、検定教科書を使用する場合には、生徒の理解度等に差があるため、生徒の興味関心や学習の定着度を十分に配慮した補助資料などで活用し、個々の状況に合った学習指導を行うこととしております。

続きまして、小学校特別支援学級の教科用図書につきましては、昨年度に引き続き、府中市の小学校において採択されている「文部科学省の検定本」、「文部科学省発行の著作本」、「東京都教育委員会発行 特別支援教育教科書調査研究資料」に掲載の図書を併用して採択候補とするとの報告を受けております。東京都の発行の資料以外からの一般図書の候補の選定は、各学校からございませんでしたので、報告させていただきます。ご協議のほどよろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） ご質問、ご意見ございますか。

それでは、協議3番の教科用図書（特別支援学級）の採択候補の選定につきましては、文部科学省の検定本、文部科学省発行の著作本、東京都教育委員会発行、特別支援教育教科書調査研究資料（学校教育法附則第9条）の規定による教科書、一般図書に掲載の図書を選定することといたします。

それでは、本日の協議は以上となります。先ほど申しあげましたとおり、本日協議いただいた内容を踏まえまして、議案を作成し、次の定例会においてご審議をいただき、最終決定することといたしたいと思っております。

————— ◇ —————

◎その他

○教育長（浅沼昭夫君） 次に、日程第4、その他ですが、何かございますでしょうか。

よろしいですか。

それではこれで、令和2年第4回府中市教育委員会臨時会を閉会いたします。長時間にわたりありがとうございました。

————— ◇ —————

午後4時02分閉会

以上、会議のてん末を記載してその相違ないことを証  
するため、ここに署名する。

令和2年12月17日

府中市教育委員会教育長

浅沼 昭夫

府中市教育委員会委員

日野 佳昭